平和の誓いを新たに

平成18年度 広島平和記念式典派遣事業

日本は昭和20年に終戦を迎えて61年。その年の8月6日には広島市に、3日後の9日には長崎市に原子爆弾が落され多くの犠牲者が出ました。

今回、安平町の小学生と中学生が広島平和記念式典に参加するため出発。現地での研修などを通して、平和の大切さをあらためて感じてきました。

広島市での体験を発表

広島平和式典の派遣事業に参加した小・中学生の報告会が9月1日に追分公民館で行われました。

安平町として初めてとなる広島平和記念式典派遣事業に参加することになった児童生徒は、追分小学校の向井瑠偉君、早来小学校の渡邉みゆきさん、追分中学校の水尾健斗君、そして早来中学校の大原れいさんの4人です。

出発式で決意を語る

8月4日 早来庁舎で出発式が行われ、町長、教育長、沼田校長先生(追分小)から激励のことばをいただきました。

追分小と早来小の児童と追分中と早来中の生徒が作った折りづる、そして旧追分町で実施していた時から続けている井森みゆきさんから平和の願いが込められた折りづるが託されました。

最後に参加者それぞれがが広島に向けての決意を語りました。

参加者の一人、大原さんはアニメマンガの「はだしのゲン」を小学生の時に見て、原爆に対して関心を持つようになり今回の事業に申し込んだといいます。

炎天下の中での式典

8月5日に広島空港に着いた一行は、厳しい暑さを実感。そして迎えた8月6日早朝も猛暑が参列した人を襲ったそうです。

強い日差しを受けながらの会場入り。式典は午前8時に始まり、この一年間に亡くなられた人や新たに確認された被爆者5、350人の名簿などが奉納されました。

原爆が投下された午前8時15分に黙とう。これは被爆死された方への弔意と平和の願いを表わすものです。

広島市長の平和宣言の後、子ども代表二人が平和の誓いを述べました。またスミス・アンジェリアさんは、両親が日本人とアメリカ人。原爆を通して平和の扉を開くために歩み続けたいと誓っていました。

内閣総理大臣や広島県知事

左から水尾健斗君(追中3年)、向井瑠偉君(追小6年)、渡邉みゆきさん(早小6年)、大原れいさん(早中3年)、及川秀一郎主幹(町職員)

原爆投下前の広島県産業奨励館のイラスト(現在の原爆ドーム)